妙安寺だより　法話特集号

仏説　桃　太　郎(1)

８月１８日、お盆お施餓鬼法要の時の法話をもとにしたもので、桃太郎の話を仏教的に結び付けて話すのは、あくまで私論であって、多少こじつけ部分があります。（仏教的なところは赤字にて著しています）

昔話とお伽話の違いはありませんが、昔話は、皆の前で話して聞かせる物語で、お伽話は、皆さんが子供・孫を寝かせるときに話す物語です。今では、昔話を話しながら、寝かせるということはあまりないようです。

また、子供たちに話してもあまり興味をもつことがありません。

桃太郎の話は、室町時代に、忠孝（忠義・孝行）、武勇の徳を中心に書かれたものです。

昔話の特徴としては、女性の場合は、かぐや姫・瓜子姫・鉢かつぎ姫など、〇〇姫。

男性の場合は、桃太郎・金太郎・浦島太郎など、〇〇太郎の話が多いようです。

これが**一姫二太郎**（一姫二太郎は最初の子は女の子、二番目の子は男の子ということで、初夢に縁起の良い一富士二鷹三茄子と同じようなものです）といわれる所以ではないでしょうか。

もう一つの特徴は、話の出だしが「昔々、あるところに、おじいさんとおばあさんが住んでいました」という言葉で始まること。

「あるところに」ということは、場所はどこでもよいのですが、その後に続く「おじいさんは山へ芝刈りに、おばあさんは川へ洗濯に」と、さらに「おばあさんが洗濯していると、川上から大きな桃が流れてきました」という話から、おじいさんとおばあさんが住んでいた場所というのは(ある所)、山と川があり、川上には桃の木がある場所に住んでいたことになります。

また、山もあまり高い山ではなく、川も浅い川（多分膝くらいのところで、流れも穏やかなところ）ではないかと想像できるのではないでしょうか。

ここで、仏教的に考えると、おじいさんとおばあさん、山と川ではなく、本来は、父親と母親、山と海でないとおかしいのです。

すなわち「父の恩は山よりも高く、母の徳（恩）は海よりも深し」という言葉があります。

「父恩者高山　須弥山尚下　母徳者深海　滄溟海還浅」＝父の恩は山より高く　須弥山（宇宙世界の中で一番高い山）より尚下（ひく）し　母の徳は海より深く　滄溟海（青々として広い海）より還（ま）た浅し。（童子教・鎌倉中期作）

・・・・・・・・・以下次号へ